

推薦する取り組み	園館名
オオツノヒツジの生態展示とその検証	横浜市立金沢動物園

推薦理由

横浜市立金沢動物園では、オオツノヒツジを野生下の群れ構成に近い雄群と雌群に分けて飼育展示しています。雄群を擬岩展示場に、雌群を草地展示場に展示することで、岩山を軽やかに飛び跳ねる姿、野草を一心不乱に採食する姿といった、それぞれの展示場を生かした生態展示を実現しています。加えて、草地の植生調査、各群の行動比較を行い、個体福祉へのフィードバックを試みています。

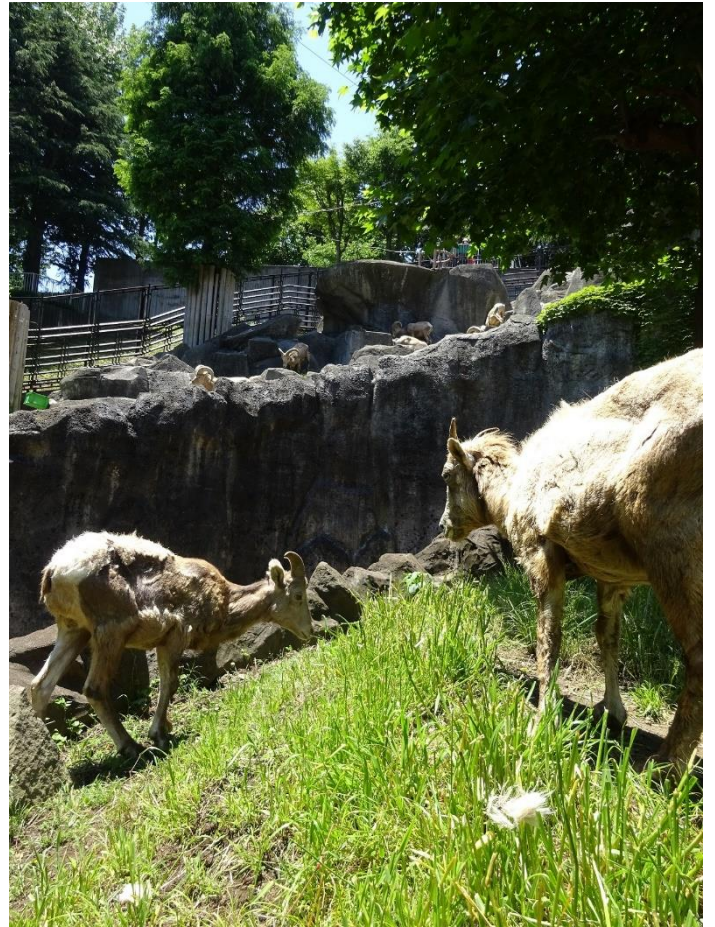
雌雄を分けて飼育することは、血統管理及び個体数調整にメリットがあり、それに伴う個体ごとの飼育スペース確保にもつながります。以前は、通年雌雄同居であったため、毎年リーダー雄の子のみが誕生し、血統管理に不向きな状況であると共に、雌は毎年のように出産することとなり、個体の健康管理にも問題がありました。そこで、空き獣舎となったプロングホーンの飼育展示スペースへ雌の個体群を移動させ、雌雄の血統を考慮したペアリングを可能としました。管理された繁殖が可能になったことで、スペースに対する飼育頭数が多いことおきる、採食時の闘争といったトラブルも減少しました。

雌群の移動に先立ち、大学と連携し、草地の植生調査を開始しています。オオツノヒツジの植生嗜好性を明らかにすることで、草地を維持するための播种植物の選定が可能になります。例えば、緑を維持するために嗜好性の低い種を全体に配置し、来園者に近い場所には嗜好性の高い種を、といった取り組みを行い、裸地化を防ぎ、恒久的な草地への展示を目指しています。また、行動調査により、自由採食が可能な草地展示個体の採食時間量が、野生のそれに匹敵することが確認されました。一方、擬岩展示個体の採食時間量は、それに比べるとかなり短く、給餌内容および方法の不適切さが示唆されました。今後、日中にも追加給餌できるよう、自動給餌機の開発も進んでおり、動物福祉につながっています。

【採食】



【展示場】



【調査風景】

